

第11回 発電用設備規格委員会 材料専門委員会 議事録

1. 日 時:2011 年4月18日(月) 13 時 30 分～17 時 00 分

2. 場 所:日本機械学会 第1会議室

3. 出席者:(委員 23 名中;出席者 12 名(代理 2 名), 欠席者 9 名)

増山(九工大)、高橋(電中研)、木村(NIMS)、浅山(JAEA)、安藤(横浜国大)、伊勢田(住金)、榎木(住金テクノロジー)、田中(日本製鋼所)、船田(JNES)、玉置(NISA)、朝田(三菱重工)、齋藤(三菱重工)

代理人:戸田[澤田(NIMS)], 亀山[吉田(発電技研)],

欠席者:石毛(IHI)、尾崎(東電)、木原(ベストマテリア)、三枝(電中研)、田村(バブ日立)、中城(東芝)、藤森(日立 GE)、南(NKK シームレス鋼管)、山田(中電)、

事務局:高柳、海野、薄井

4. 配布資料

資料 11-1. 第 10 回材料専門委員会議事録(案)

資料 11-2. 材料専門委員会委員名簿

資料 11-3. 第 56 回規格委員会議事録(案)

資料 11-4. 材料専門委員会課題対応一覧(Tracking List)

資料 11-5. 材料規格申請に関する事項のレビュー結果

資料 11-6. 材料事象の解説

資料 11-7. 高速炉規格における新規材料の規格化に関するレビュー結果

5. 委員会の成立について

委員総数23名中、出席 12 名、代理出席 2 名、欠席9名であった。専門委員会運営規約第 8 条 2 項「(3) 挙手による決議を行う場合、委員総数の3分の2以上の出席を必要とし、出席委員数の3分の2以上の賛成をもって当該議案の可決とする。」により、決議を行うことはできないが、運営規約には委員会の成立に関する条件はないため、委員会は成立することを確認した。欠席の多い委員に対して、今後の委員会への出席の意思を確認することとした。

6. 報告事項

材料専門委員会報告

第10回材料専門委員会議事録報告がされた。今回(11回)は、委員出席者数が満たないことから承認項目は次回(第12回)に繰り越すこととした。

規格委員会報告

第56回規格委員会の審議内容の内、材料専門委員会関連内容が報告された。

7. 審議事項

(1) RQ09-C2-001:材料規格化申請に関する事項 【資料材 11-5】

新規材料の取り込み指針等に関する比較表の内容について、修正箇所等を確認した。各規

格間での不整合項目を集約するとともに、今後の規格策定活動に利用できる状態で維持するための方策を検討することとした。

(2) RQ09-C2-002:材料事象の解説 【資料材 11-6】

4名の担当委員によるレビュー、校正結果を確認した。各委員が分担項目を再確認して、修正がない場合でも連絡することとした。JSME 独自に追加した A900 ボイラ関連項目について、レビューを担当する6名の委員を決定した。今後の検討課題は以下の通りである。

- どのような出版形態にするか？
- ASME 規格の翻訳に関する許可の必要性の有無を確認する。

(3) RQ11-C3-001:高速炉規格における新規材料の規格化 【資料材 11-7】

高速炉規格における2種の新規材料(316FR、改良 9Cr-1Mo 鋼)の規格化の資料に関して、各委員から提出されたコメントが紹介され、提案者(原子力専門委員会高温規格分科会)との間で若干の意見交換が行われた。正式には次回材料専門委員会にコメント回答が提出され、これを基に議論することとなった。

8. 次回開催予定

日 時:2011 年 7 月 28 日(木) 13:30～17:00 (予定)場 所:日本機械学会 第 1 会議室
(その後、7 月 7 日(木) 13:30～17:00 に変更となった)

以 上